

米中シットコムにおける「笑い」の構造ーラフ・トラック挿入ポイントにおける共通点と差異の比較

吉松, 孝

<https://hdl.handle.net/2324/4784627>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (芸術工学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名 : 吉松 孝

論 文 名 : 米中シットコムにおける「笑い」の構造
ーラフ・トラック挿入ポイントにおける共通点と差異の比較

区 分 :

論 文 内 容 の 要 旨

二大言語圏であり固有の歴史を持つ米国・中国のシットコムを対象とし、テキストから笑い(ラフ・トラック)の挿入ポイントの性質に関しての共通性や差異を分析、考察した。シットコムにおける「笑い」の作られ方の共通点と差異を文化的背景、社会的背景に照らして明らかにすることを目的とする。

分析対象として、米国と中国で、放送範囲(放送局)、持続性(エピソード数)、受賞歴から、サンプルとしての代表性が高いと想定されるシットコム「*the Big Bang Theory*」「*Friends*」「*Full House*」「愛情公寓」「我爱我家」「家有儿女」の6作品を選定した。

分析方法として、筆者自身が、シットコムの視聴を通して、シットコムにおけるラフ・トラック挿入ポイントの性質についての分類項目を作成した。分類項目は、大分類として、その他を含む8種類、小分類として、70種類を設定した。そして、シットコムの登場人物の発話部分のテキストのラフ・トラック挿入ポイントを小分類項目のどのような性質を持つかに当てはめ、定性分析を行った。定量分析として、分類されたラフ・トラックの小分類を番組ごとにカウントし、大分類の比率、小分類の数値と比率を、番組ごと、国ごとの角度から見て、その傾向について分析を試みた。

分析結果で、米中のシットコムでの共通性として最も高かったのは、大分類「発話の意味の解説」で、両国で30%を越えた。2番目に高かったのが、大分類「実在と虚構の混在」で、両国とも20%近い割合を占めた。「発話の意味の解説」は、登場人物達の日常会話の設定から面白みを生み出すことを原点とするシットコムで、セリフの応酬だけで組み立てる点で最もクラシカルな手法といえる。その中で、表意から推意前提や推意帰結を解説させることにより、効果的に面白みを感じさせる。「実在と虚構の混在」は、登場する当事者間では面白いとは認識されにくく、普通の会話をしているようにしか認識できないが、ラフ・トラックが付与されているのは、視聴者が第三者的に俯瞰的に視聴することで面白みを感じるメタ構造を形成しているからだと考えられる。

米中の差異として、米国シットコムで大分類項目の割合が有意差をつけ高かったのは、「発話の意味の解説」、「正当な発声、発音とのギャップ」であった。中国シットコムで割合が高かったのは、「優越性の認識」、「フレーミングの変化」であった。また、米国シットコムで小分類項目の割合が高かったのは、「下心」、「実在しているものの話題への挿入」、「虚構に関する真剣な議論」、「話題がなく沈黙」、「顛末の省略」、「自慢」、「本音と建前のギャップ」、「音の高低」であった。一方、中国シットコムでは、「ケチな振る舞い」、「誇張」、「ウソを吹き込まれて、本気になる行為」、「ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為」、「奇妙な提案」、「拡大解釈」、「嫌悪感の表示」、「同音異義語や似た音での聞き違い」、「自文化、異文化の未理解による失敗」、「決めごとに対する想定外の事態」、「立場の逆転、変化」であった。

米国で大分類の「発話の意味の解説」が高かったのは、論理性を基軸とする英語では、その論理性の中で遊戯性を作る傾向が強く、「正当な発声、発音とのギャップ」が高かったのは、発音の標準が明確に存在しており、そこから崩れることを面白みとする背景があると推測できる。中国で「優越性の認識」の割合が高かったのは、自国、自民族を中心とする意識が制作者の思考の前提として存在することが考えられる。「フレーミングの変化」の割合が高かったのは、米国シットコムが発話の応酬によって展開する傾向があるのに対し、中国では設定を動かす傾向が出ているためであると考えられる。